

# 「感動した体育大会」

from 豊山中学校

九月二十六日、豊山中学校第六十二回体育大会が、「限界突破 FULL MAX」のスローガンのもとに行われました。勇ましくやる気のみなざる行進を見たとき、改めて生徒の底力に驚かされました。

開会式では、選手を代表して三年D組の山田 烈君が力強い選手宣誓を行い、競技に向かう心意気を示してくれました。

午前中は各種競技の決勝が行われ、午後からは恒例となっている女子全員による綱引きと、男子全員による騎馬戦が行われました。いずれも熱戦が繰り広げられ、一人一人の生徒が、クラスやチームの勝利のために限界まで挑戦する姿は、実にほほえましくたくましく感じました。

特に綱引きと騎馬戦は、生徒の全力プレーと観る人の応援とが相まって、会場全体がまさにひとつになり、大変な盛り上がりを見せました。勝っても負けてもお互いに全力を出し切ったことをたたえ合い、すがすがしい雰囲気の中に終えることができました。

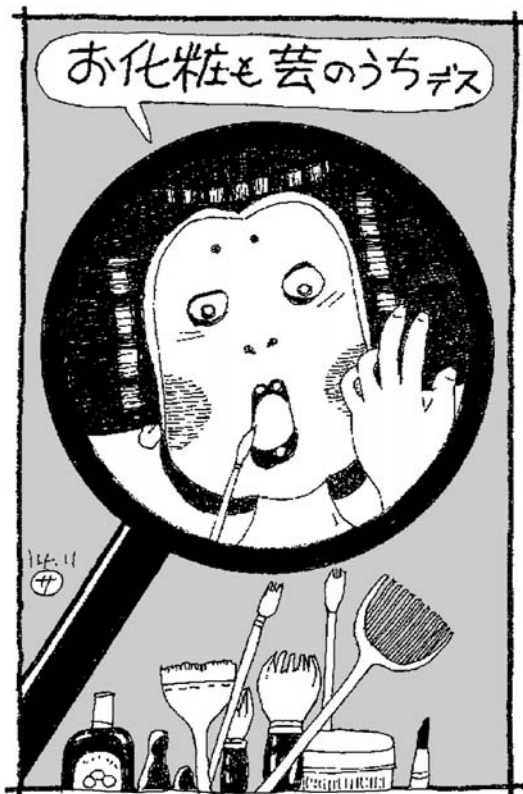
体育大会が終わり、今は文化祭に向けて取り組んでいます。実りの秋にふさわしく、各種行事を通して一人一人

の生徒が感動という名の想い出を胸に、力強く成長することを願っています。



## 第七十二話

### 九十野の芝居



昭和二十年八月十五日に大東亜戦争が終わり少し落ち着いていた頃、青年団ではみんなに喜んでもらえるなら芝居でもしよう、ということに話が決まりました。

地区ごと別々に練習することになり、九十野では演題が「南郷力丸」に決まりました。

青年部長の河村屋呉服店の二階を整理して、そこで毎晩毎晩練習しました。

名古屋の北区如意から長谷川先生と林先生が来てくださり、せりふや台本を見ながら練習する私たちに、親切に教えてく

ださいました。せりふが言葉に出ず立ち回りもなかなかできなくて、毎日汗びっしょりでした。

大勢の前でせりふを言うだけでも大変なのに、顔や首筋を真っ白に塗るので、顔がこわばって気持ちが悪かったことを覚えています。

下手な芝居でも拍手をいただけるとうれしくて、鏡でお化粧した自分に見とれていた、舞台上立つとせりふを忘れて、頭が真っ白になったこともありました。

今は昔の物語です。(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)



まなびすと